

クリの超低樹高栽培では毬果へのクリシギゾウムシ防除薬剤付着が良好である

【要約】クリの成木後期の仕立て法である超低樹高栽培では、毬果の位置が慣行栽培より低いため、毬果の上面、下面ともに散布した薬剤の付着が良好であり、クリシギゾウムシ成虫の防除効果の向上が期待できる。

中山間農業研究所 中津川支所

【連絡先】 0573-68-2036

【背景・ねらい】

クリのクリシギゾウムシ防除に使用されてきた臭化メチルくん蒸剤の全廃に伴い、代替のヨウ化メチルくん蒸剤が農薬登録されたが、県内では導入の動きが進まないことから、ほ場での効果的な防除の必要性が高まっている。一方、現地では成木後期樹の仕立て法として超低樹高栽培が普及しているが、それまでの慣行の仕立て法と比較し樹高が低いため防除効果が高いこと予想される。そこで、超低樹高栽培における毬果の位置と薬剤付着程度を調査し、クリシギゾウムシの効果的な立木防除の資とする。

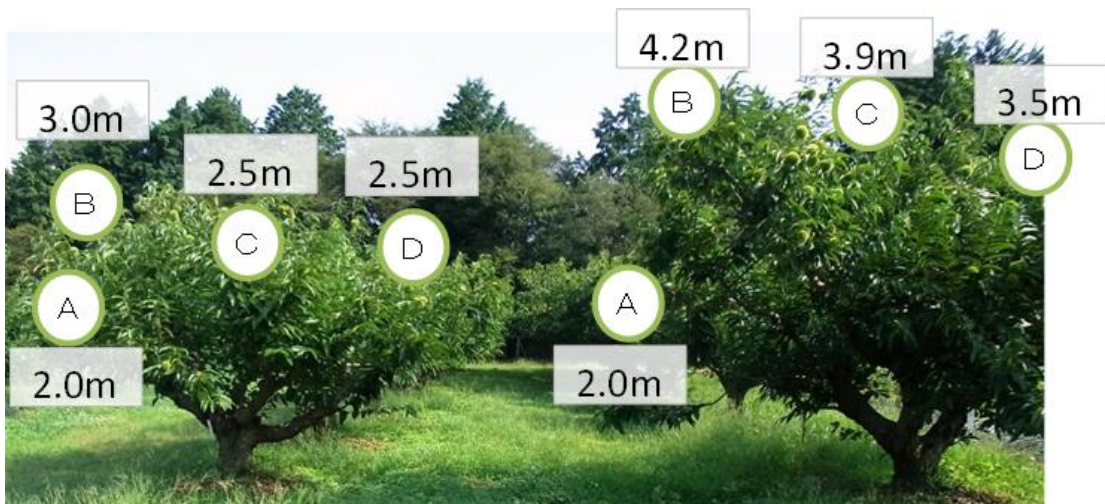
【成果の内容・特徴】

- 1 超低樹高栽培法で仕立てた樹と短幹変則主幹形でそのまま仕立てた慣行樹の着毬位置を比較すると、外周部、中央部ともに超低樹高仕立て樹は慣行仕立て樹より1～1.5m程度低い(図1)。
- 2 超低樹高仕立て樹と慣行樹で毬果へ設置した感水紙の薬剤付着程度を比較すると、超低樹高仕立て樹では慣行仕立て樹に比べ樹冠の外周部、中央部、並びに毬果の上面、下面のいずれにおいても良好であり、毬果への付着も同様な傾向にあると推測される(図1、図2)。

【成果の活用・留意点】

- 1 超低樹高栽培において、結果母枝数が多すぎたり、結果母枝が枝垂れたりしている場合は、互いが影となり薬液の付着が劣る場合があるので、適正な結果母枝資質、結果母枝密度(2～3本/m²)を守って剪定する。
- 2 慣行の仕立て法であっても、樹齢が10年生程度までは樹高が低く保てるため、通常の薬剤防除には支障がない。

【具体的データ】



超低樹高仕立て樹 (29年生樹)

慣行仕立て樹 (29年生樹)

図1 感水紙設置位置 (平成25年)

※樹冠外周部および中央部で高さの異なる穂果の上下に感水紙を設置
 数値は地上から着穂位置までの高さ(平均値)

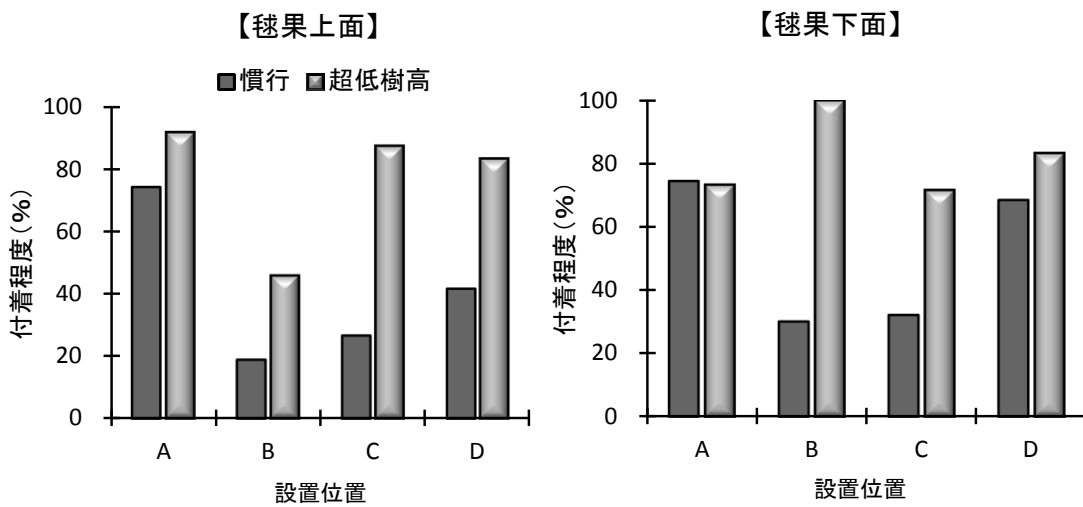


図2 整枝せん定方法の違いが散布の付着程度に及ぼす影響 (平成25年)

研究課題名: クリのくん蒸処理から脱却するクリシギゾウムシ防除技術の開発 (平成25~27年度)
 研究担当者: 磯村秀昭